

## 『なぜ女性は仕事を辞めるのか ～5155人の軌跡を読み解く～』 出版



青弓社(1600円+税)

2011年に現代女性キャリア研究所が実施した首都圏の短大・高専卒以上の女性(25～49歳)を対象とした調査をもとに、『なぜ女性は仕事を辞めるのか～5155人の軌跡を読み解く～』が青弓社より出版されました。

女性の多様なキャリアを詳細に分析するなかから、「女性は結婚・出産で仕事を辞める」という一般的な認識のかけに、女性の就労意欲を十分受け止めず、能力発揮のチャンスを与えてこなかった企業側の問題が浮き彫りになってきました。女性の活躍が求められる今、是非、お読みいただきたい1冊です。

## 経営者団体調査

女性の再就職や就業継続に関する雇用側の意識や実態を明らかにするため、東京中小企業家同友会事務所にて女性部のメンバーからお話をうかがいました。

各従業員に合わせた個別対応により就業継続が実現されるという中小企業の成功例が紹介され、大学に対しては、再就職を希望する女性への教育と、企業とのマッチングの窓口としての役割を期待するという声が聞かれました。

## 社会調査に役立つ統計分析：SPSSワークショップ

2016年2月22日(月)、23日(火)、25日(木)、26日(金) 講師：金明中先生(ニッセイ基礎研究所)

学内の学生・教職員を対象として、社会調査に役立つ統計分析：SPSSワークショップを開催いたしました。今回もメディアセンターの協力を得て、コンピュータ演習室で行われました。ニッセイ基礎研究所の金明中先生に、4回の連続講義として、SPSSの基礎知識と基本操作から、データの加工、クロス集計、統計分析の基礎(回帰分析)までをご講義いただきました。定員30名を超える申込みをいただき、参加者からも大変好評を得ました。



## RIWAC-DA (リワック・データ・アーカイブ)

現代女性キャリア研究所では、国際婦人年(1975年)以降に実施された、女性とキャリア(生き方)に関する社会調査を多数収集し、その詳細書誌をデータベース化しネット上で公開しています。新たな書誌データ及び寄贈された個票データ(新潟総合学院など)を追加いたしました。レポートや論文作成、ゼミ報告などに、多様な社会調査をぜひご利用ください。

<http://search.riwac.jp/>

所蔵件数 約 1520 件 (2016年2月現在)

## 紀要『現代女性とキャリア』

年に一回、紀要『現代女性とキャリア』を発行しています。論文のほか主催した講演会やシンポジウムの記録、研究所の事業活動に関する報告を収録しています。また、投稿論文も受け付けております。詳細はHPをご参照ください。

紀要をご希望の方は、切手(1冊400円、2冊以上は要問合わせ)を貼った返信用封筒(B5サイズの入る大きさ)を当研究所へお送りください。



## お願い

現代女性キャリア研究所では、女性とキャリアに関する社会調査のデータアーカイブ(<http://search.riwac.jp/>)を公開しています。

女性とキャリアに関する社会調査資料をお持ちの方は、ご協力お願いいたします。

# News Letter

Research Institute for Women and Careers

RI\*WAC

日本女子大学

現代女性キャリア研究所

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1

TEL 03-5981-3380 FAX 03-5981-3381

E-mail [riwac@fc.jwu.ac.jp](mailto:riwac@fc.jwu.ac.jp) URL <http://riwac.jp/>

## シンポジウム「女性のキャリア形成に大学は何ができるのか」

2015年12月12日（土）開催

第1部では、現代女性キャリア研究所がこの5年間取り組んできた「女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究」(文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 2011～2015年度)の成果報告をおこないました。この研究事業の柱となっている二つのテーマについて、それぞれ研究の流れと成果が示されました。

テーマ1「女性とキャリアに関わる戦後社会調査の再分析と女性調査アーカイブの公開運用」では、当研究所の女性調査アーカイブの運用状況および、所蔵する約1500件のデータから教育分野と家族分野を中心に分析した結果が報告され、社会調査が社会の情勢や関心を反映していることが示されました。

テーマ2「大学における女性の再就職支援プログラムの開発研究」では、プログラム開発のために実施した「女性とキャリアに関する調査」結果、および本学リカレント教育課程の協力を得て行われた女性の再就職支援プログラム開発・実施結果が報告されました。「女性とキャリアに関する調査」は、2011年度に首都圏在住の短大・高専卒以上の女性5155人を対象に行ったものです。この調査によって、高学歴女性の就業実態が詳細に把握され、これまでの女性就業支援が、「女性は結婚・出産で仕事を辞める」という前提で、その時期の離職を食い止めることに偏った支援であった可能性があることが示されました。



合同会社西友の協力を得て新たに開発した女性の再就職支援プログラム「セルフリーダーシップ・プログラム」では、職場に出て問題解決やプレゼンテーションを実体験し、自分の可能性を再確認したり、自らのキャリア形成に主導的に取り組む姿勢を獲得することの重要性が確認されました。そうした場を提供することが大学に求められています。

大沢所長よりテーマ1、テーマ2の総括として、従来考えられてきた女性のキャリア形成支援の幅を広げる必要があること、大卒女性が活躍できるための公的支援は整備されていないため大学が教育面で関わるだけでなく、今後は企業側の採用ニーズと女性側の就業ニーズをマッチさせるシステムの構築にもかかわることが期待されていることが示されました。そして、何度でも再チャレンジできるセカンドチャンス社会を作り上げていくことが、社会全体を活性化するカギであると述べられました。外部評価委員の大野曜先生、大槻奈巳先生より、本事業の運営および成果についてご講評をいただきました。

第2部では、ハーバード大学社会学部長兼ライシャワー日本研究所教授メアリー・プリントン先生をお招きし、「セカンドチャンス社会構築に向けて」と題してご講演をいただきました。日本の企業では同じ会社に長く勤めることが一般的ですが、アメリカに比べて企業間移動すなわち転職が極めて少なく、それが労働者の会社に対する交渉力を限定していることが指摘されました。もし、他社に移動できる可能性が高ければ、労働者は自分の仕事の条件や内容について会社の都合を優先させる必要がなくなってきます。したがって、終身雇用的な価値から転職の価値への転換が必要です。それを可能にするには、労働者個人はポータブルな能力を身に付けることが重要となり、そのための教育の重要性が増していくことが指摘されました。

大変刺激のお話をうかがい、日本の大学は具体的にどのような教育を提供できるのかなど、フロアを巻き込んだ質問や意見が活発に交わされ、盛り多いシンポジウムとなりました。

このシンポジウムの記録は、2016年度の当研究所の紀要『現代女性とキャリア』第8号に掲載する予定です。

## 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 (2011～2015年度)

	プロジェクト名	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
テーマ1	データアーカイブ		日本女子大学卒業生調査データ化	データアーカイブの運用と拡充		
	ワークショップ	「SPSSで学ぶ統計分析入門」(前期)	「SPSSで学ぶ統計分析入門」(後期)		「SPSSで学ぶ統計分析」	「SPSSで学ぶ統計分析」
テーマ2	(1) 「女性とキャリアに関する調査」	Web調査・分析・報告書発行				
	(2) リカレント教育課程修了生調査「女性のキャリア支援と大学の役割に関する調査」		アンケート調査・分析・報告書発行		インタビュー調査・分析・報告書発行	
	(3) 教職調査「教職免許状取得者のキャリアに関する調査」		アンケート調査・分析・報告書発行		新プログラム提案	再就職支援プログラム試行・評価
	(4) 企業調査					アンケート調査/インタビュー調査・分析・報告書発行
	研究会			研究会		
	シンポジウム	「災害復興と女性の自立」	「女性の再就職支援と大学の役割—国際的経験の交流」	「女性の活躍推進に、いま何が求められているのか」	国内シンポジウム	国内シンポジウム(プロジェクト成果報告)

## リカレント セルフリーダーシップ・プログラム

### 講演会「女性と仕事」

2015年7月3日（金）

合同会社西友の執行役員の平林浩美さん、大坪真子さん、人財部採用担当マネージャーの内山明香さんを講師にお迎えし、「女性と仕事」と題しての講演会を開催いたしました。

講演会では、今までどんなお仕事を経験されてきたのか、どんなご苦労があり、それをどのように乗り越えてこられたのか、仕事でのやりがい、家族からの支援など、ご自身のご経験を変容具体的にお話しいただきました。また、女性の活躍推進のために西友が様々な取り組みを行っていることや人事システム等についてのご説明もなされました。

当日は、本学リカレント教育課程生や大学・大学院の学生など、30名ほどのご参加をいただき、熱心な質疑応答が行われました。なお、本講演会は9月に実施される「セルフリーダーシップ・プログラム(第2回)」のキックオフイベントとして実施したものです。

### 女性の再就職のための体験型プログラム「セルフリーダーシップ・プログラム(第2回)」

2015年9月2日～4日、9月7日～8日

現代女性キャリア研究所とリカレント教育課程は、合同会社西友の協力を得て、女性の再就業のための体験型プログラム「第2回セルフリーダーシップ・プログラム」を実施しました。今年は2回目の実施となり、リカレント教育課程生(入学予定者含む)約20名の方々にご参加いただきました。

5日間にわたるプログラムは、西友の店舗、物流センター、惣菜工場などの見学や、そこで働く人たちとの質疑応答や議論を通し、現場の課題を発見、解決策を提案するという内容です。参加者は非常に熱心に議論、提案作成、練習を行い、最終日には西友の役員及び社員の方々の前でプレゼンテーションをしました。その後、西友の方々との間で熱心な質疑応答が交わされ、最優秀グループの発表がありました。

どのグループの発表も、参加者の視点が活かされたものとなっており、緊張感がありながら、時には笑いの要素も交えた発表は、参加者の皆さんの工夫が伝わってきて、大変興味深いものになっていました。

プログラム終了後の参加者から、「働くこと、働き続けることはやはり素晴らしいと再確認できた」「自分が思っている以上に女性の視点や力が現場では求められていることが分かった」「チームで作業し、プレゼンテーションをする過程はとても勉強になった」などの意見が聞かれました。参加者は、このプログラムを通して多くの気づきを得ることが出来たようです。



## 研究会「Parental Leave Policies and Women's Employment in Japan :Managerial Responses」

2015年7月24日（金） 講師：Mary C.Brinton

人口減少に伴う労働力不足に対処するため、女性活用への注目が高まっていますが、現実には、女性の就業を取り巻く課題がまだ多く存在しているように思われます。

現代女性キャリア研究所では、ハーバード大学社会学部長兼ライシャワー日本研究所教授を務めるメアリー・プリントン先生をお招きし、育児休業と女性雇用に対して日本の企業はどのように考えているのかについて、調査から得られた知見をご報告いただきました。

市場の文脈や性別役割規範は育児休業を取得した労働者に対する雇用側の評価に影響を与えるものですが、育児休業の実施は企業側の意識にどのように影響するのかという点から議論は進められました。

大企業25社の人事担当(manager)へのインタビューから明らかになったことは、企業側は、育児休業をとるのは有能な女性であり、「理想的な労働者(会社へのコミットメント大)」であり、理想的な母親であると考え、一方、長期間にわたって育児休業をとることは、企業内での従属的地位と家庭内での性別分業を実体化する可能性があるということでした。

仕事と家庭における性別分業を変えていくには、育休期間の短縮、父親も育休を取れるようにすること、短時間労働の導入が必要であることが示されました。

この報告に対し、フロアからも活発な質問や意見が飛び交い、これまであまり明らかにされることのなかった企業側の育児休業に対する考えへの関心の高さを実感する研究会となりました。

